



Title	eコマース向け青果物サプライチェーンに関する研究 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	末永, 千絵
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(農学)
Dissertation Number	甲第14372号
Issue Date	2021-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/81295
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Suenaga_Chie_review.pdf, 審査の要旨



学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称 博 士（農 学） 氏名 末 永 千 絵

審査担当者	主 査	教 授	坂 爪 浩 史
	副 査	教 授	近 藤 巧
	副 査	准教授	小 林 国 之
	副 査	講 師	清水池 義 治

学 位 論 文 題 名

e コマース向け青果物サプライチェーンに関する研究

論文は序章、終章を含む7章からなり、図26、表40、文献179を含む総頁数141の和文論文である。別に2編の参考論文が添えられている。

eコマース、すなわちインターネット上におけるモノ・サービスの取引は、場所・時間の制約なく様々な商品の購入を可能にするものであり、中でも消費者向けに無店舗販売を行う企業（eコマース企業）は幅広い商品を揃え、全国の消費者個々の希望に対応し事業拡大を続けている。eコマースはこうした性質から、農産物についてもごく短いサプライチェーンを構築することが可能で、多くの中間業者を不要なものとすると考えられてきた。しかし現実には、サプライチェーン上に多数の流通業者が介在している。本研究は、こうしたeコマース向け青果物サプライチェーンにおける中間流通の存立根拠を明らかにしたものである。

第1章ではeコマース市場が拡大傾向にあること、消費者の食料品購入においてeコマースは利便性が求められ、店舗で購入困難な商品の購入先となっていること、eコマース企業は多品目を取り扱い、中でも有機農産物など非慣行栽培青果物が多く取り扱われていることを確認し、eコマース企業と生産者が直結したサプライチェーンは僅かで、中間流通が介在することを推定した。

第2章では、eコマースに対応する青果物生産者を取り上げ、彼らが非慣行栽培もしくは希少品種・品目の少量多品目栽培を行っていること、eコマース向けの販売比率が高い生産者ほどeコマース企業や流通事業者を利用することによって出荷にかかる特殊性や取引条件を緩和していることを示した。

第3章では、eコマース企業から直接受注している生産者組織が、卸売市場を中心に販売対応を行っており、eコマースは高品質な商品を単品又は少量多品目出荷する販路として部分的に位置付けられていること、生産者組織が介在することで生産者の効率的な出荷

を実現する一方、e コマース企業の品揃え要請に対する対応力には限界があることを明らかにした。

第4章ではe コマース向け青果物サプライチェーンにおける専門流通事業者を分析し、専門流通事業者が全国に複数の産地を持ち、多品目供給できる機能を持つこと、同事業者は生産者、生産者組織、他の専門流通事業者から調達していること、販路はe コマース企業のほか、スーパーや生協等であることを明らかにした。そしてe コマース向け青果物サプライチェーンは専門流通事業者が複数介在する多段階流通となっており、役割は分化していることを明らかにした。

第5章ではe コマース向け青果物サプライチェーンにおいて多くの場合、専門流通事業者等が消費者対応を担っていること、受注手段がインターネット上で行われ、これまで調達先・販売先が用いてきたFAXと異なること、生協・スーパーと比べ受注頻度が高く納品期日が短く不安定な性質を持つため、専門流通事業者が発注手段の変換および集出荷調整を行っていることを明らかにした。

終章では以上を総括し、e コマース向け青果物サプライチェーンは専門流通事業者など中間流通が介在する多段階流通となっていること、中間流通の存立根拠はe コマース企業に対する生産者・生産者組織と比べ高い品揃え機能とともに、生産の零細・分散性、e コマースの発注の特殊性、不安定性に対し、専門流通事業者が役割分担しながら需給調整機能を担うことでサプライチェーンの効率化・安定化を実現することにあることを解明した。

このように本研究は、これまで他の商品同様、流通過程を圧倒的に短縮化すると思われてきた青果物のe コマース・サプライチェーンについて、現実には専門流通事業者などが多数介在する多段階な構造となっていること、ならびにそうした中間流通が介在する根拠を解明したものであり、学術的にも実践的にも高く評価出来る研究である。

よって審査員一同は、末永千絵が博士（農学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認めた。